



## カウンセリングルームだより

Vol. 29 (2010年10月発行)



### クリニックのオペ室と培養室がリニューアルされました

体外受精には、採卵を行うためのオペ室と、採取した卵子と精子を受精させるための培養室の環境がとても重要です。このたび当院では、日々の医療技術向上の努力と共に、患者様の大切な受精卵をお預かりして培養するための環境を向上させ、より高い妊娠率を目指して改装工事をいたしました。

この機会に皆様に、卵子や精子を扱う医療専門職のエンブリオロジスト (Embryologist)、胚培養士とも呼ばれている人たちのことをご紹介します。

エンブリオ (Embryo) とは、卵子と精子が受精した後の8週未満の胚 (受精卵) を指します。かつては神の領域だった受精を、生殖補助医療において、その手で「命の素」を生み出し、育ていく職業です。

体外受精において、医師は、患者様の卵子をいかにしていい成熟卵に育てるか、そして、いい状態で採卵し、負担をかけずにいい受精卵を子宮へ戻すかということになります。

いい成熟卵を採取するのが医師の役割なら、その採卵した卵子を精子と培養していい状態の受精卵にするのがエンブリオロジストの役割ということになります。生殖補助医療の最前線であり、心臓部分とも言えます。それだけにエンブリオロジストにかけられる期待も大きく、そのプレッシャーやストレスも並大抵ではないようです。

エンブリオロジストの7割は臨床検査技師出身と言われていますが、中には農学部や畜産学部の出身者で、生物学や動物学、発生学を専攻してこの仕事についている人もいます。

生殖補助医療の発展によって体外受精児は増え続け、国内で2007年に生まれた赤ちゃん (108万9818人) のうち、1万9595人が体外受精で生まれており、56人に1人の割合になります。2007年末までに、19万4051人が誕生しています。

その何倍ものカップルが体外受精を受けている訳ですから、エンブリオロジストの活躍は底知れず多大なものです。

患者様には、精子や卵子、受精卵の状態を詳しく説明させていただきま。患者様にとっては、子ども同様の受精卵であり、一番気になるところでしょう。医師やエンブリオロジストのアドバイスを受けて、治療方針を決断しなければならず、究極の選択を迫られることも多々あり、緊迫した空気を感じることでしょう。

当院のエンブリオロジスト達は臨床経験を重ねたプロフェッショナル、テクニックだけでなく、卵子や精子に向き合う姿勢は厳か。わからないことは遠慮なく質問してくださいね。又、メンタル面でのサポートはカウンセラーにご相談いただけるように連携しております。こちら積極的にご利用ください。

#### 10月・11月のカウンセリング予定日

10月9日、16日 (不妊学級)、23日、30日

11月6日、13日、20日 (不妊学級)、27日

